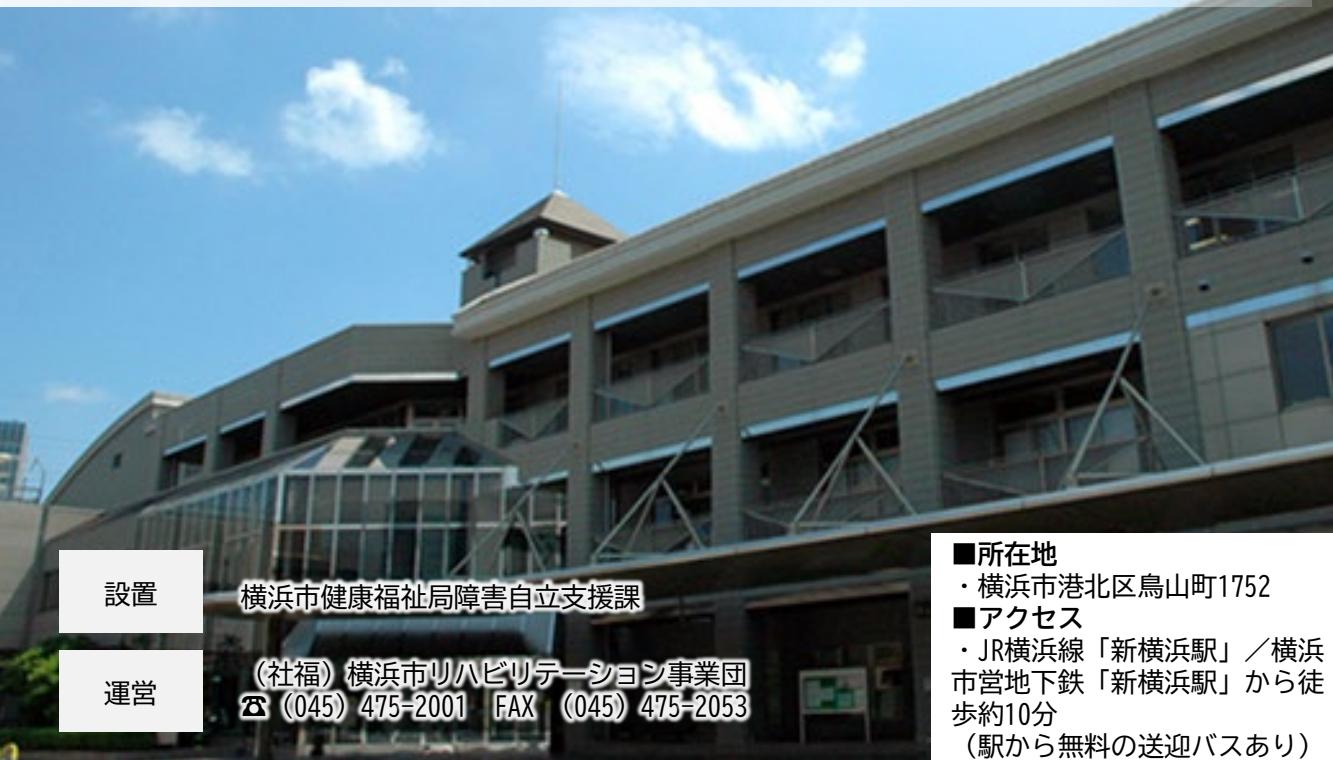


スポーツと文化活動の両面から障害者の社会参加を促進



設置 横浜市健康福祉局障害自立支援課

運営 (社福)横浜市リハビリテーション事業団  
☎ (045) 475-2001 FAX (045) 475-2053

■所在地  
・横浜市港北区鳥山町1752  
■アクセス  
・JR横浜線「新横浜駅」／横浜市営地下鉄「新横浜駅」から徒歩約10分  
(駅から無料の送迎バスあり)

DATA

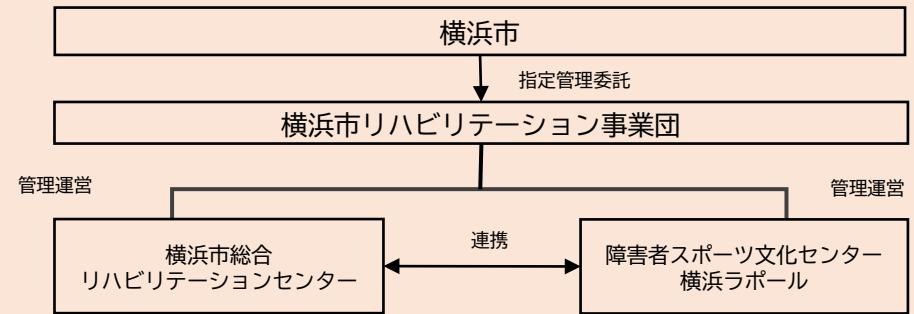
■竣工 ・1992年  
■規模 ・28,818㎡ (延床面積)  
■総事業費 ・約120億円

■主な設備



メインアリーナ 1,500㎡    プール 25m×6コース    フィットネスルーム    屋外グラウンド    シアター 300席

■体制図



構想・計画

○障害者の「完全参加と平等」につなげる施設

■障害者の主体的な参加促進につながる施設に

- ・設置当時、横浜市では「よこはま21世紀プラン」という計画において、国連の国際障害者年の理念に基づく障害者の「完全参加と平等」の実現を長期目標として掲げていた。
- ・この目標実現に向け、スポーツ、文化活動、レクリエーションなどへの障害者の参加機会を創出するとともに、市民相互の交流を深めることを目的として設置が検討された。

○身体障害者福祉センターA型施設

■身体障害者の福祉の増進に関する事業を総合的に行う施設

- ・横浜ラポールは、身体障害者福祉法第31条に規定された「身体障害者福祉センター」のうち、「A型」に該当する。障害者が運動する場所としての機能だけでなく、機能訓練、スポーツおよびレクリエーションの指導、ボランティアの養成、身体障害者社会参加支援施設の職員に対する研修、その他身体障害者の福祉増進に資する事業を総合的に行う施設という位置づけで計画された。

設計・建設

○様々な利用用途の居室の設置

■多様な運動施設に加え、文化活動用の部屋も併設

- ・広い敷地の中に、アリーナ、プール、フィットネスルームのほか、100mトラック、アーチェリー場、4つのレーンを有するボウリングルーム等が設置されている。そのため、来館者は初心者から上級者まで、様々なスポーツ・レクリエーションを気軽に楽しむことができる。



- ・「スポーツ文化センター」という名前の通り、文化活動を切り口とした障害者の社会参加を支援する設備も充実している。聴覚障害者向けの磁気ループを備えた300席のシアター、子ども用のおもちゃを備えたおもちゃ図書館、様々な文化活動を行うための創作工房や多目的ルームなども設置されており、スポーツをしない人でも来館しやすい施設となっている。



管理・運営

○ノーマライゼーション社会の実現に向けた3つのコンセプト

①裾野の拡大

- ・重度障害者や初心者、何をすればよいかわからないといった方に向けて「相談窓口」を設置し、パラスポーツ指導者資格を有するスタッフが、利用者の相談に対応するなどのサポートを実施している。
- ・障害者施設や学校等に、スタッフを派遣してスポーツ体験会の開催や相談に対応するなど、身近な地域で運動やスポーツに親しみ、生涯スポーツ活動への一歩となるきっかけづくりを行っている。また、ラポールへの来館につながるよう関係性の構築に努めている。

②自立の支援

- ・障害者が主体的に運動・スポーツに参加できるよう、障害者の状況に応じた工夫や仲間づくりを進めている。生活の自立度向上や積極的な社会参加につながるような支援を行っている。

③地域の支援

- ・身近な地域でスポーツに親しめるように、地域の社会資源と連携して障害者の参加機会を創出したり、地域のスポーツ団体等を対象とした研修会の実施など支援者の育成を進めている。例えば市内にあるマリナで、障害者がヨットに乗るために必要なサポートを当該施設と一緒に検討し、リハセンターとも連携して乗降用リフトなどの器具開発や介助方法を工夫した。



## アリーナ

➤ 駐車場が広いなどのアクセス面の利便性もあり、さまざまなスポーツ大会会場としても利用されている。

コートや設備などスポーツを行う準備に手間がかかる。



人気の高いボッチャのコートラインを常設。このほか同じく人気の高い卓球台も常設。

車いすのタイヤの空気が抜けると、スポーツがしづらくなる。



いつでも自由に空気を入れられるよう、アリーナ入口前に車いす用の空気入れを設置。

車いす利用者など視線の低い人は高い位置の表示が見づらい。



誰でも居室の方向がわかるよう、ピクトグラムも用いて、地面に案内を大きく表示。

## 更衣室

➤ 様々な利用者がいることから、それぞれの利用用途に応じた更衣室を設け、安心できる環境を構築する。

介助が必要な子どもの場合、その親は他の利用者に対して気を遣う。



通路のスペースの一部に、カーテンを設置し、着替え用スペースに改修。

通常の更衣室では車いす利用者が着替えられないことがある。



車いすからの移乗をしやすくするため、リフトを設置。

様々な状況から通常の更衣室の利用が難しいことがある。



異性の介助が必要な方、各性別の更衣室の利用が難しい方、授乳室として活用できる部屋を設置。

## プール

➤ 利用者の使いづらさを解消するための設備や備品、工夫が随所にみられる。

用具が倉庫にあると取り出すのに手間とを感じる人もいます。



スポーツ用具をアリーナ入口近くの籠に用意。視覚的にわかりやすくすぐに取り出せる。

様々な障害状況から、入水しづらい利用者がある。



リフト設置のほか、プールの中にすのこを置き、段差を軽減するなど入水しやすい工夫の実施。

通常の車いすではプール室内に入れない。



プール内でも車いすで移動できるように、プール専用の車いすの貸出の実施。

## フィットネスルーム

器具間が狭いと車いす利用者にとっては移動しづらい。



居室内を快適に移動できるように、十分な間隔を設けてマシンを設置。

来館してから混雑してマシンを使えない時がある。



混雑しやすい時間を曜日ごとに色分けして表示し、利用者の分散利用を促進。

### <スタッフの常駐>

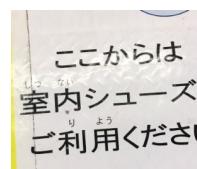
・フィットネスルームにはスタッフが2名常駐しており、自力でトレーニング器具を使うことが難しい利用者のサポートや、器具の使い方の説明、運動方法の指導などを行っている。

・また、利用に慣れていない方や運動習慣が定着していない方にとっては、スタッフがいることによる安心感を感じてもらえることができる。

## その他



利用者の健康づくり支援として、運動面だけでなく生活面や栄養面などの健康に関する相談に対応するために、保健師や栄養士が常駐する健康相談コーナーを設置。



漢字を利用する場合は、ふりがなを表示。

## 屋外施設



現在は、グラウンドゴルフやサッカーの使用が多い。施設の使用方法も時代に合わせて柔軟な対応が必要。

ラポールは開館以来「みんな笑顔！」を大切にしてきました。利用される方一人ひとりが自分のペースで、スポーツや文化活動を安心して楽しめるようにサポートしています。横浜市の拠点施設として、地域にもどんどん出ていくなど障害者スポーツ・文化活動の盛り上げに取り組んでいます。



館長

## 利用者現状

利用人数



- ・新型コロナウイルス感染拡大前までは、毎年40万人以上が来館。
- ・そのうち障害者の利用比率は7割弱。

効果

- ・障害種別や程度を踏まえ、スタッフが各利用者に適した運動・スポーツを案内しているため、利用者が無理なく安全に楽しくスポーツをできる。
- ・スタッフの声掛けによるコミュニケーションが安心感につながっている面も大きく、活動の継続や施設利用の定着につながっている。

利用者Voice

- ・スタッフも明るく声をかけてくれるし、ここが自分のホームグラウンドだと思える。
- ・スタッフに名前と呼ばれることがうれしい。
- ・同じスポーツをするグループに入れて楽しい。